

中京テレビ開局50年
第37回 名古屋クラシックフェスティバル

ハレルヤ!!

コーラスが
天辺まで届く!

「メサイア」
ヘンデル作曲

レザール・フロリサン
(管弦楽&合唱)

ウィリアム・クリスティ
(音楽監督&指揮)

10/13日 13:15開場
14:00開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

S ¥16,000 A ¥13,000 B ¥9,000 C ¥7,000 D ¥5,000 学生 ¥2,000(税込)
※未就学児入場不可 ※学生券をご希望の方は、中京テレビ事業(☎052-588-4477)までお電話ください
(26歳以下対象／要学生証提示)

お問い合わせ
お申込み

中京テレビ事業 052-588-4477 (平日 10:00~17:00)

<https://cte.jp/37cf/> 名古屋クラシックフェスティバル 検索 座席表からお席をお選びいただけます!

主催: 50th
CHUKYO TV

企画・運営: 中京テレビ事業

ヘンデル作曲

「メサイア」をより楽しむポイント!!

Point 1

キリスト
メサイア=救世主の
一大「ドラマ」!

世界のスーパースター、キリストの生誕・
受難・奇跡の復活を描く。その感動の一生
はまるで大河ドラマ!

Point 3

何番目に演奏されるかは
当日配られるプログラムを
チェック!!

約50曲ある中でも、注目してほしい曲はコレ!

合唱

「And the glory of the Lord」
こうして神の栄光が現れ

神の栄光を歌う合唱曲。光がぱあっと輝くような高揚感!
冒頭の歌詞「And the glory the glory of the Lord」が、「あんた
ゴ~リラ、ゴリラだろ~」と聴こえるとか聴こえないとか。。。

合唱

「For unto us a Child is born」
我らのために一人の嬰児が生まれた

『Wonderful! Counselor!』と、興奮しながら神の子の誕生を祝います。
以前、愛知芸術文化センターの地下でこのメロディが流れているので、
耳にした事があるかも?

ソプラノ

「Rejoice greatly, O daughter of Zion」
大いに喜べ、シオンの娘よ

キリストが生まれた喜びを、ソプラノが難しい技巧を駆使して歌い上げます。

合唱

「Surely He hath borne our griefs」
まことに彼は我らの悲嘆を担い

『キリストが担ったのはわたしたちの病、負ったのは痛みなのに…』
という悲しみのどん底を歌う、とても心の痛い音楽です。
“タッカタッカ”という付点のリズムは、キリストの鞭打ちを表すと知った
時の衝撃たるや…。



レザール・フロリサン
(管弦楽&合唱)

名称は、マルカントワヌ・シャルパンティエの
作曲した劇音楽「レザール・フロリサン(花咲
ける芸術)」から取られている。
フランスおよび海外のツアーも数多く、
ニューヨークのリンカーンセンター、ロンドン
のバービカン・センター等へも招かれている。

Point 2

音楽もドラマティック!

まるでオペラを見ているような
ドラマティックさ!
超一流のオーケストラと合唱の美しさに
胸を打たれるはず!!

合唱

「Lift up your heads, O ye gates」
頭をあげよ、門を開け

キリストの魂が復活するために天井の門で繰り広げられる、門の外の
キリスト一行と、門の中の天使たちとの掛け合い。今までの暗さを吹き
飛ばす力強い曲。

合唱

「Hallelujah!」
ハレルヤ!

ヘンデルといえばハレルヤ!というくらい、メサイアを聴いたことが
ない人でも、このフレーズは聴いたことがあるでしょう。
弾圧を避け、主の栄光を賛美して歌っています。
King oh Kings! Lord of Lords! 王の王! 主の主!

バス

「The trumpet shall sound」
ラッパが鳴り響くと

ラッパが鳴り渡ると死者は復活すると、バス(一番低い声)が朗々と歌い
上げます。
そしてトランペットが華やかで誇らしく格好いい! でも奏者はとても
大変。。。

合唱

「Amen」
アーメン

『屠られた(殺された)その血により、わたしたちの罪を贖った子羊こ
そ、力、富、智恵、強さ、誉れ、栄光、そして賛美を受けるに相応しい。』
神の子羊=イエス・キリストを賛美する歌が華々しく歌われた後、ひた
すらアーメンと歌われます。とても感動的な曲で、ラストの盛り上がり
には身も心も震えること必至!



ウィリアム・クリスティ
(音楽監督&指揮)

チェンバロ奏者、指揮者、音楽学者。
1944年ニューヨーク州のバッファロー
ロー生まれ。'79年レザール・フロリ
サンを設立し、新たな解釈を持込み、
たちまち世界の音楽界で話題となる。
フランスの国際音楽大使として活躍。